

第1学年 道徳学習指導案

2組 計21人 (男子11人, 女子10人)

指導者 諸平幸奈

1 主 題 名 わがままをしないうで (1-1) 節度・節制, 自立)

資料名「かぼちゃのつる」(学研教育みらい1年)

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年1-1(1)】 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないうで、規則正しい生活をする。
【中学年1-1(1)】 自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
【高学年1-1(1)】 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。
【中学校1-1(1)】 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。

(2) 指導内容についての基本的な立場

節度とは、周りに迷惑を掛けることのない、適当な度合いのことである。節制とは、理性による思慮を働かせて、適度な調和を保つための自己規制のことである。自立とは、他者との調和の中で成り立つ独り立ちのことである。ここでは、自分がわがままをすることで周りの人がどんな気持ちになるのかを考え、自分の気持ちを優先してわがままをするのではなく、人に迷惑を掛けないよう自分の気持ちを我慢するための大切な考え方を身に付けていくこととなる。

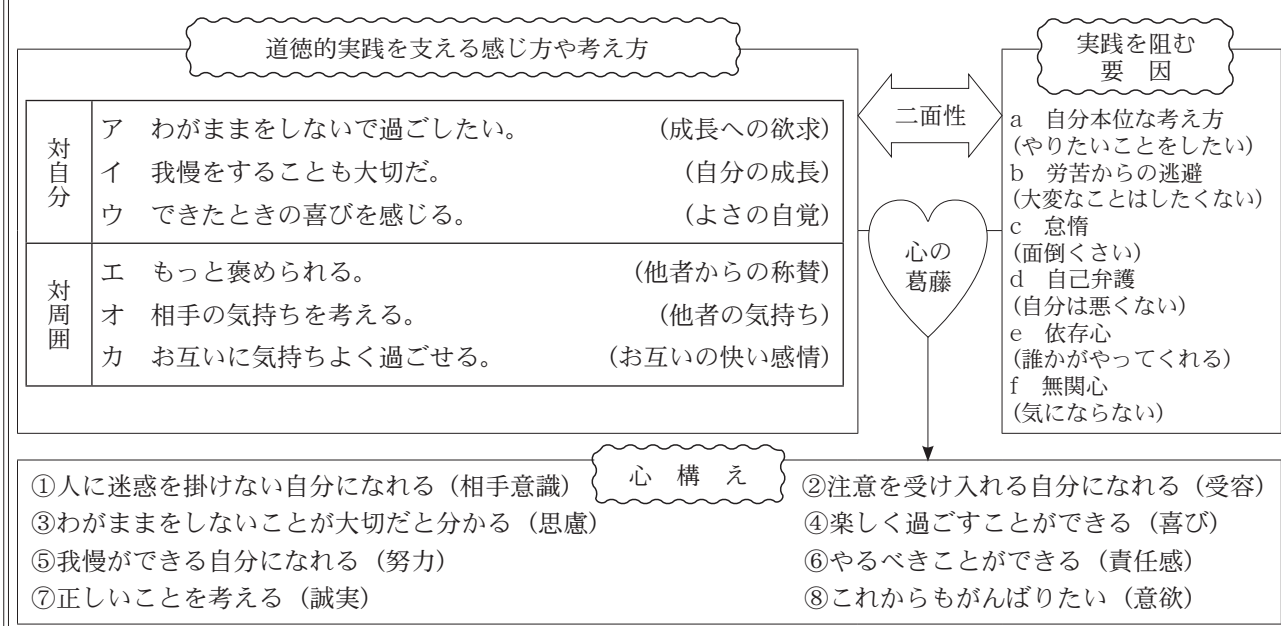
この期の子どもたちは、年度初めは小学校へ入学した喜びから、何事にもやる気をもって取り組もうとする姿が見られた。しかし、学校生活や周りの友達との関わりに慣れてくると、自分らしきを出すことができるようになった反面、自分本位な考えによる行動をとるなどわがままを通す姿が見られるようになる。このことで、友達とトラブルになったり、友達に不快な思いをさせてしまったりする場合もある。

そこで、本主題では、わがままを通すことは、周囲を不快な思いにさせ、迷惑を掛けてしまう場合があることを理解できるようにする。また、わがままを通すのではなく、周囲の気持ちを考え、自制することで、みんなが気持ちよく過ごせることに気付くことができるようにする。これらのことにより、わがままをせず、相手の気持ちを考えて気持ちよく生活をしようとする心情を育てる。

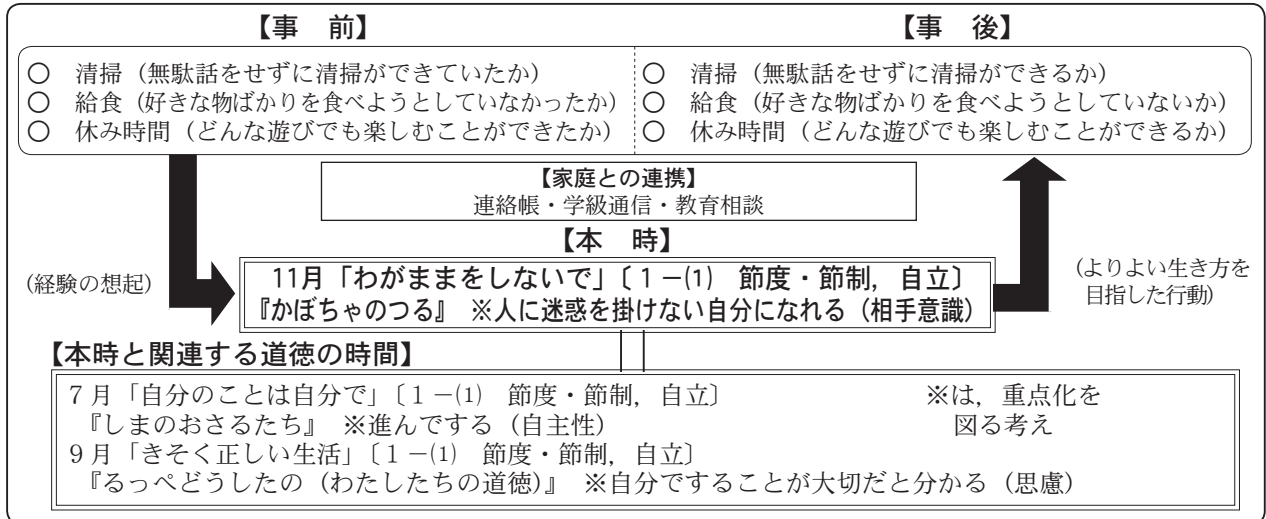
(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造

第1学年及び第2学年

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないうで、規則正しい生活をしようとする態度を育てる。



(4) 本主題に関連する体験活動及び家庭や地域社会との連携等



3 子どもの実態

(調査人数21人 重複あり 平成27年8月21日)

(1) 本主題に関する経験場面①

わがママをしないで我慢した経験	人数
・ わがママをしたことがない（場面がない）	8
・ 欲しい物があつたけど我慢した	7
・ 忘れた	3
・ 行きたいところに行けなかったけど我慢した	2
・ じゃけんで負けたけど我慢した	1

(2) 本主題に関する経験時の気持ち

わがママをしなかったときの気持ち	人数
・ 我慢する心が大切だ	3
・ だめと言われたから我慢しよう	2
・ 言うことを聞こう	2
・ お母さんを怒らせたくない	1
・ じゃけんだから仕方ない	1
・ 前に怒られたから	1

(3) 本主題に関する経験場面②

わがママをしてしまった経験	人数
・ ない	9
・ 食べたい物や行きたいところがあつた	7
・ 欲しい物があつた	2
・ 貸さないといけない物があつた	1
・ サッカーの練習	1
・ 勉強が嫌だ	1

(4) 本主題に関する経験の理由

わがママをしてしまった理由	人数
・ どうしても食べたかつたから	3
・ 嫌だから	3
・ どうしても行きたかつたから	2
・ 楽しみにしていたから	2
・ 自分だけ持っていなかつたから	1
・ 気分	1

(5) 道徳的価値の意義

わがママをしないことはなぜ大切か	人数
・ お母さんが困るから	9
・ 分からない	5
・ お母さんが怒るから	4
・ お金ももたない	1
・ 結局いらなくなるから	1
・ 悪い大人になるから	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

わがママをしないためにどんな考えをもつか	人数
・ 優しい気持ち（心）	8
・ 我慢する気持ち	5
・ 分からない	4
・ 大切な気持ち	2
・ お母さん大好きだよという気持ち	1
・ 他の人の迷惑にならないという気持ち	1

(1)(3)から、多くの子がわがママを我慢した経験がないということが分かる。ただ、我慢ができなかつたということではなく、わがママをすることがないために、我慢をすることもないと挙げている子が多いことが分かる。(2)から、わがママをしたことがないのは、周囲からだめだと言われたり、怒られるという気持ちをもったりしていることからだということが分かる。一方で、(4)から、わがママをしてしまったときは、自分のやりたいことを優先しすぎてしまったという経験が多いことが分かる。(5)(6)から、わがママをすることで、「お母さんが困る」、わがママをしないためには、「優しい気持ち」「我慢する気持ち」などの周囲への意識をもっている子がいることが分かる。また、「分からない」と挙げている子も複数いることも分かる。

この調査から、わがママをしたことがないのではなく、自分の言動がわがママなのかどうかを認識していないということも考えられる。また、今までの経験から「わがママはいけない」ということは分かっているが、なぜわがママをしてはいけないのかという理由までは、はっきりと自覚していない子がいることも考えられる。そこで本時では、まず、どのような言動がわがママなのかをもう一度確認する必要がある。わがママをしてしまっている具体的な場面を提示し、わがママとはどのような言動のことをいうのかを捉えられるようにすることで、今までの自分を振り返ることができるようになる。次に、資料の中の登場人物の気持ちを考えさせる際、わがママをしている立場とその周囲の立場、両方の気持ちを考えさせることで、わがママをしてしまうと周囲を不快な思いにさせ、困らせてしまうことを考えることができるようにする。そうすることで、周囲のためにわがママをしないことの大切さに気付くことができるようにする。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

ある畑のかぼちゃは、自分の畑は空いているにも関わらず、人が通る道やすいかの畑にぐんぐん自分勝手につるを伸ばしていた。そして、周りのみんなに注意をされたが、聞こうとしなかった。すると、道を通ったトラックにつるを切られてしまった。

(2) 資料の分析・反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子どもの反応
1 はちやちよう、すいか、犬に注意をされてもつるを伸ばしているかぼちゃ 【心の弱さ】	a 自分本位な考え方（やりたいことをしたい） b 労苦からの逃避（大変なことはしたくない） c 怠惰（面倒くさい） d 自己弁護（自分は悪くない）	・ ぼくは、道につるを伸ばしたいんだ。 ・ ここまで伸ばしたんだからいいだろう。 ・ 別の所に移動するのは面倒くさい。 ・ ぼくの勝手だろう。
2 トラックにつるを切られたかぼちゃ 【後悔・意義】	イ 自分の成長（対自） オ 他者の気持ち（対周） カ お互いの快い感情（対周） ①相手意識 ②受容 ③思慮 ⑤努力 ⑦誠実	・ 自分の畑だけにつるを伸ばせばよかった。 ・ みんなの注意を聞いておけばよかった。 ・ 我慢をしていればみんなと楽しく過ごせるはずだ。

この資料は、自分の畑ではないところにつるを伸ばしていくかぼちゃが、周りの注意を聞かず、わがままをしたことで、最後にはつるを切られてしまうという話である。

本学級の子どもたちは、様々な学校行事を体験し、友達と助け合おうとする姿勢が身に付きつつある反面、自分がやりたいことや好きなことを優先してしまうこともある。この資料の、かぼちゃが周りに注意をされてもわがままを通してしまう行動は、子どもたちにとって共感しやすい内容と言える。周りの人の気持ちを考え、わがままを我慢することで自分も周りの人も気持ちよく過ごせると考えることができるように、この資料を活用する。

5 指導に当たって

(1) 「自分事の問い」をもつための手立ての充実【研究内容1】

「気付く」過程では、アンケート結果を基に子どもたちの多くが経験したことがあるわがままをしている場面を見せる。そして、「わがままをしてしまうのは、しょうがないことですね。だから、このままでいいですよ。」と揺さぶりの発問をすることで、本当にわがままをしてよいかどうかを考えることができるようにする。さらに、なぜわがままをしない方がよいのかと理由を問うことで、わがままをすると困る人がいることに気付くことができるようにする。そうすることで、「わがままをしないための『大切にしたい考え』について考えたい」という「自分事の問い」をもつことができるようにする。また、ワークシートに自分のめあてを書かせることで、一人一人が必要感や切実感をもって学習を進めることができるようにする。

(2) 「自分事の問い」の解決につながる「学び合い」の設定【研究内容2】

「見つめる」過程では、資料の中のかぼちゃの気持ちになって、「わがままをしないための大切な考えについて自分の考えを広げたり深めたりするため、大切な考えとその理由に着目し、友達の考えと自分の考えを比べる。」という「学び合い」の目的と視点で、ペアで考えを伝え合う。まず、資料の登場人物と自分を重ね、自分の考えをワークシートに書く。そして、ペアで自分の考えとその理由を伝えることで、友達の考えと自分の考えを比べやすくし、より自分の考えを明確にする。そのような「学び合い」を通して、「我慢する気持ちはやっぱり大切だ。」（強固）、「周りの気持ちを考えることも大切だ。」（付加・修正）など「節度・節制、自立」に関する見方や考え方を広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 自己の変容を実感できる自己評価の在り方【研究内容3】

「深める」過程では、わがままをしないで気持ちよく生活するための「大切にしたい考え」を見付け出す際、「気付く」過程で示した場面をもう一度見せることで、わがままをしてしまっていた自分を思い出させ、より自分に引き付けて考えることができるようにする。その後、「大切にしたい考え」をワークシートに書き、それを自分のめあてとつなげて教師と共に見つめることで、「節度・節制、自立」に関する見方や考え方の変容に気付くことができるようにする。

6 本 時

(1) 目 標 相手の気持ちを考え、わがままをせず、気持ちよく生活をしようとする心情を育てる。

(2) 展 開 □ は教師の言葉掛け [] は予想される子どもの反応 ◆ は重点評価項目 ☆ は ICT 活用の留意点

過程 (分)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
<p>10 (10)</p> <p>気付く</p>	<p>1 わがままをしてしまっている場面を見て、わがままをしてしまったことを思い出し、話し合う。</p> <p>今までのこのようなことをしたのは、ありませんか。</p> <p>わがままをしてしまうのは、しょうがないことですね。だから、このままでいいですよ。</p> <p>わがままをしないための「大切にしたい考え」は、何だろう。</p>	<p>☆ アンケートの結果を基に、わがままをしている場面を映像で見せることで、今までの自分の行動を振り返ることができるようになる。</p> <p>○ 振り返ったことを基に本時で考えたいことをワークシートに書き込むことで、「自分の問い」をより明確に意識できるようにする。</p> <p>○ 挿絵を使って資料を読み聞かせることで、話の内容をつかむことができるようにする。</p> <p>○ 役割演技では、かぼちゃ以外の役もさせることで、わがままをすると周りの人がどんな気持ちになるのかを考えることができるようにする。</p> <p>○ 困っている度合いを目盛りを使った図で示すことで、周りの人がどの程度、困っているのかを視覚的に捉えることができるようになる。</p>
<p>25 (25)</p> <p>見 つ め る</p>	<p>2 資料「かぼちゃのつる」を聞いて、かぼちゃの気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) わがままを言っているかぼちゃや、注意をしている周りの生き物たちの気持ちについて話し合う。</p> <p>好きなところを伸ばしたい。自分が伸ばしたいところだから、伸ばしちゃえ。</p> <p>困ったな。注意したのに。わたしの畑に入って欲しくないのに。</p> <p>わがままを言って伸ばしたつるを切られたとき、かぼちゃはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>自分の畑だけに伸ばせばよかった。</p> <p>周りの人を困らせていたな。</p> <p>(3) かぼちゃがわがままをしないための大切な考えについて話し合う。【学び合い】</p> <p>かぼちゃがわがままをしないための考えをはっきりさせるとその理由を友達と比べてみましょう。</p>	<p>○ 考えをペアで伝え合うことで、自分の考えに自信をもったり、友達の考えのよさを感じたりすることができるようになる。その際、理由につながる「なぜなら」という思考語彙を使うことで、根拠を明らかにして伝え、互いの考えを比較することができるようになる。</p> <p>○ 「自分だったら、わがままをしないためにどんな気持ちを大切にしたいと思いますか。」と発問することで、自分に引きつけて「大切にしたい考え」をもつことができるようになる。</p>
<p>7 (7)</p> <p>深める</p>	<p>3 これまでの自分を見つめ、わがままをしないために「大切にしたい考え」を見付け出す。【自己評価】</p> <p>自分だったら、わがままをしないためにどんな気持ちを大切にしたいと思いますか。</p> <p>対周 ・ ぼくは、「周りの人の気持ちを考える」という気持ちを大切にしたいです。</p> <p>対自 ・ わたしは、「我慢をする」という気持ちを大切にしたいです。</p> <p>4 わがままをしないで楽しく活動できたことについての、教師からの手紙を読む。</p>	<p>◆ わがままをしないで気持ちよく生活するための「大切にしたい考え」をもつことができていますか。【観察、発言、ワークシート】</p> <p>○ わがままをしないで楽しく活動したことについて、子ども一人一人に教師からの手紙を渡すことで、「わがままをしない」ことへの実践意欲を高めることができるようになる。</p>